

新年明けましておめでとうございます。

今年は亥年、飛び跳ねる、突進すると行動的な一年になることを予感させます。皆様、どのような新年をお迎えでしょうか。

お雑煮などでお餅をいただかれた方も多いと思います。お雑煮は土地柄がでる代表的な食べ物であり、またグローバル化した現代でも、先祖代々とはいかないまでも、親から受け継いだものを後代に伝えていくような、日本の文化が詰まった食べ物のように思います。ちなみに、私は北国新潟で育っており、鮭でとった出汁で作る、すまし仕立ての雑煮で、大根やにんじん、タケノコ、ゴボウなどと鮭の切り身やイクラも入る具沢山のもので、もちが具に埋まったような状態で食べていました。餅は角餅でした。京都にもしばらくいましたが、白味噌仕立てで丸餅が入った雑煮は、やんごとなき殿上人が食べたかもしれませんが、味気なくて慣れませんでした。八代でのものは、伝統的には焼き鮎で出汁を取り、中身は新潟と似たような具沢山の具で、丸餅というような記載が多いですが、まだ地元の方にごちそうになったことは無く実態はわかりません。

もう一つ、新潟の正月で欠かせないのが、煮物の「のっぺ」です。暮れになると母親が大きな鍋にたくさん作って、正月中ずっと食卓に上るものです。これも新潟独特と思っていたら、なんと熊本に来て、居酒屋のメニューに「のっぺい汁」を見つけました。中身も新潟の「のっぺ」とほぼ同じ。由来は奈良県あたりかららしいですが、なぜ、新潟にも熊本にもあるかは謎です。因縁を感じました。

年末に、熊本労災病院では初めての大きな出来事がありました。心停止下の臓器・組織提供です。当院は「脳死下臓器提供」ができる指定病院ではないのですが、心停止後であれば腎臓などの提供が可能です。日頃からそのような場合に備えてのシミュレーションは行ってきましたが、今回、重篤な状況となった患者さまのご家族から提供についてのお申し出があり、多くのプロセスを経て実際に両腎臓、角膜、そして骨の提供に至りました。悲しみの中、崇高なご決断をいただいたご家族に深く敬意を表する次第です。また、これらの臓器組織を移植されて新たな人生に踏み出すレシピエントのお気持ちを代弁すれば、感謝してもしきれません。私自身、四半世紀にわたって、肝移植を中心とした臓器移植を主な仕事と定めて従事してきました。多くの瀕死の患者さまが移植後、元気で歩いて退院する姿を目にしてきましたが、提供側のすべてのプロセスをつぶさに経験するのは初めてであり、多くの感動、そして学びがありました。

た。患者さまとご家族の思いに寄り添い、提供の意志を完遂させようとみんなで協力した主治医や院内コーディネーター、看護師、事務職員の皆様のがんばりに敬意を表するとともに、当初から患者さまに寄り添ってその気持ちをサポートされた県や臓器移植ネットワークの移植コーディネーター、そして実際に臓器組織の提供手術に携わった医師の方々にも院長として心から感謝しております。臓器や組織の提供は、本当に多くの方々の善意と熱意、責任感の結実である事を身近に実感することができました。図らずも、移植医としての経験を基礎に今回体験した提供側の実態について課題も見えた部分があり、委員である、厚労省の臓器移植委員会などでの発言に反映させたいと思っています。

2019年、どんな年になるのでしょうか。4月に新元号が発表され、5月に天皇陛下が史上初めて禅譲により交代されます。お祝いとしての10連休も予定されていますが、これは医療機関としてはなかなか大変な前代未聞の10連休であり、新年早々から、診療機能の維持によって地域にご心配をなるべくおかけしない対策を準備していきたいと思っています。

何はともあれ、年末からの急激な寒波でインフルエンザも激増です。体第一で今年もがんばりましょう。労災病院をよろしく願いいたします。